

アカシア探検隊

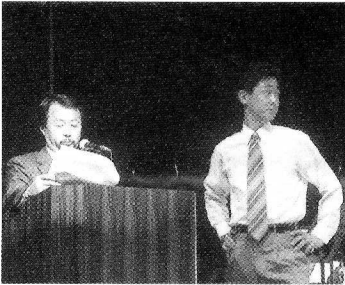
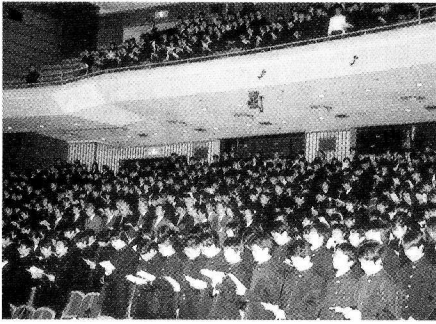
甲…今度は創立95周年記念式典が4月15日に行われるんじやが、それを取材して記事を書けーゆう指令じや。

乙…アー残念。取材したいのは山々なんじやけど、その日はもう用事が入っるとるんです。すんませんねえ。

甲…んじやビデオ撮っとくけえ。それ見て書く？

乙…どーやっててもワシが書かにやあいけんようになつとるわけか。分かりましたよ。行きやあエエんでしょ。

ということで、今回はアステールプラザで行われた広島大学附属中・高等学校95周年記念式典の、アカシア探検隊風リポートです。



司会役の井藤(66回)・山下(69回)両先生

記念式典の全体的な印象としては、式次第にもはつきり記されている通り、「歌でつづられた95周年」でした。校歌は勿論の事、「うれし、うれし」で始まるおなじみの「開校記念日の歌」、学生歌「緑萌ゆ」、学園歌「若い風」、同じく学園歌「アカシアの香り」などが次々と合唱され、私自身も学生時代の記憶が次々と呼び起こされて来ました。来賓の方々やアカシア会会員の皆様も同様だったようです。また、式典の中ほどにあつたスライド「95年の歩み」もBGMとして前記の歌が流れ、とても良い雰囲気の中で、わが母校の歩み(最近の軟式野球部の活躍振り)も紹介されていきました。



学生歌作詩の和田稔氏(42回)

す。堅い挨拶が続くなかでウィットに富み、時節に沿った視点からの祝辞は見事なものでした。また、主催者側から要請のあつた(5分間)を数秒と狂わせずにまとめられた点については、流石としか言いようのないものでした。以下はその要約です。

「ただ今ご紹介いただきました、アカシア会の会長を務めております43回卒業の石井でございます。先ほどの現役生徒さんによるオーブニングの演奏が20、30年前の広島交響楽団より正確で良い音で、嬉しいやら楽しいやらの気持ちでいっぱいです。(中略)

現在、行政改革の名の下に附属学校の廃止、統合問題が課題となっております。本来行政改革とは、悪しき習慣・伝統を改め、良き伝統を元にして新しき前進のある改変を行わなければならぬのであります。しかしながら必ずしもそうならない場合があります。例えば、かつて自治省が行った町名変更においては、歴史風土に基づいた薫りある町名が廃止され、

創立95周年記念式典



アカシア会より寄付贈呈

例えば小・中・高の12年間一貫教育とか、海外子女の受け入れ、全学英語教育の徹底、高校時の全寮制等々、色々な特徴を提案しながら生き残りを図りたいと考えております。それにつきましては、学校側にも格段の協力のほどをお願いしたいと思います。

創立百周年までには、新しい附属中学校・高等学校の礎を磐石なものにしたいと考えております。関係者の皆様方には協力のほど心よりお願い申し上げます。

それらを十把ひとからげに〇〇何丁目とされてしまいました。これなどは改悪の象徴的な例だと思えます。

我々は兄弟校である筑波の附属学校、同窓生と協力して委員会を組織し、附属学校の必要性を説いて回るつもりです。勿論その必要性を訴える時には、これからの附属学校の在るべき姿の提案も必要です。



学園歌作曲の喜多村あかねさん(76回)

簡単ではありますが、これをもって95周年のお祝いの言葉とさせていただきます。」

石井会長の指摘されました通り、現在附属学校の統廃合や移転問題が取り沙汰されています。5年後の百周年を無事に、そして盛大に迎えるためには、我々アカシア会会員も努力しなければならぬと思います。

今回も素晴らしい式典でありましたが、探検隊なりの視点で見ると、現役生徒諸君にもっと積極的に式典に参加して欲しかったと思います。生徒独自のプログラムを加え、附属生のモットーである、自由、自主、自立の精神を發揮してもらいたいと感じました。体育祭や文化祭のノリで生徒が参加していればもっと附属らしい式典になったのではないかと思います。

百周年の式典が学校、アカシア会、そして現役生が三位一体となった素晴らしいものとなるよう期待してリポートを終わります。

甲斐 稔(63回)
谷口公啓(73回)